

## 式辞

春の息吹が感じられるこの佳き日、同窓会長様、PTA会長様をはじめ、多くの保護者の皆様のご臨席をいただきまして、岐阜県立岐阜北高等学校の卒業式を挙行できますことを、心から感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました三百五十五名の生徒の皆さん、卒業おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。また、今日まで、お子様を陰となり日向となって支えてくださいました保護者の皆様におかれましては、卒業を迎えられたお子様の姿に、感慨もひとしおであろうとお察し申し上げますとともに、これまで本校の教育活動に寄せられました皆様の深いご理解とご支援に対しまして、改めて厚くお礼申しあげます。

さて、皆さんが本校に入学された当時、本校では南舎の新築工事が始まり、足掛け三年の月日をかけ、ようやく白亜の新校舎やテニスコートなどの整備が終わりました。素晴らしい教育環境が整った今から思えば、プレハブ校舎での学校生活も、皆さんにとつては懐かしい光景となつて、心の中にあるのではないでしょうか。このように新しく整備された環境の中で、昨年十一月三日には本校創立七十周年記念事業が行われ、改めて本校の長い歴史と、先輩諸氏の皆さんが営々と培ってこられた実績を知ることができました。特に式典では「北斗の指標」に込められた願いについてお話をしましたが、ここで、もう一度皆さんにお話しします。「北斗の指標」を造られた彫刻家の山口牧生氏によれば、「北斗の指標」は「天空の指標が北斗であるように、我が北高生が社会の指標的な存在に育ち行くことを願う」指標であり、また「若人の空の高みへの志向を象徴している」とのことです。顧みれば、大きな希望を胸に本校の正門をくぐって以来、皆さんは本校の校訓である「変わらぬ色の三つ柏 若き生命 高き志操 ペンの象る英知をもちて」の精神をしっかりと受け止め、授業に、部活動に、北高祭に、生徒会活動にと、よく努力されました。そんな皆さんを「北斗の指標」は、多くの卒業生の願いととも静かに見守ってくれていたのです。皆さんは同窓生となって、これからも続いていく本校の歴史の中に加わっていくこととなります。昨年夏、アメリカ、ポートルランドのカトリン・ゲイブル校から来た生徒に、「北高で生徒達が送っている生活に嫉妬すら感じる」と言わしめた皆さんの団結力、行動力、指導力などに、大いに自信を持ってよいのです。これからも、自信と誇りをもって進んでください。

ただ、これまでの皆さんの努力の陰には、ご家族の皆様をはじめ、先輩、友人など多くの方々の支えがあるということを決して忘れてはいけません。また、校長としては、本校の教職員が皆さんを思う気持ちも誰にも負けないものであることも、皆さんが心に留めてくれれば幸いです。あると思っております。

これから社会に巣立ち行く皆さんに向けて、私が日頃考えていることをお話します。

これまで科学技術力で世界をリードしてきた我が国ですが、その将来を考えたとき、残念ながら決して楽観できる状況ではありません。科学技術立国として誇ってきた我が国の科学力や工業力が、中国、韓国、インドをはじめとするアジアの国々に追われる一方で、国内において

は少子高齢化社会のもたらす歪みや所得階層の二極化、地域格差の拡大などの問題も顕著になりつつあります。また、ますます進むグローバル化により、オーストラリアとの経済連携協定EPAや、より幅広い経済関係強化を目指す環太平洋経済連携協定TPPへの対応も予断を許さない課題となっています。こうした変化の激しい時代において求められる能力とは、課題を敏感に見出す力であり、その課題を論理的に分析する力であり、豊かな想像力で物事を企画し切り拓いていく力です。また、先を見通す力や、何が重要なかを判断するバランス感覚、そして相手を理解するとともに自分の考えを相手に伝えるというコミュニケーション能力も大切になるでしょう。こうした力はいずれも受身の学習で身に付くものではなく、自ら学び、考え、行動するという能動的な学習を通して初めて自分のものになるのです。皆さんには、ぜひ生涯にわたって積極的に学び続ける姿勢を持つてほしいと思います。

ここまでは我が国が置かれた厳しい状況についてお話してきましたが、次に、今年度、私の心を揺さぶった惑星探査機「はやぶさ」のお話をしたいと思います。七年前に打ち上げられ、小惑星イトカワを探査した「はやぶさ」が、満身創痍の状態で、昨年六月十三日、地球に帰還しました。何度も通信が途絶え行方不明となり、また搭載したイオンエンジンも不調という状況下の中で、プロジェクトチームの適切な判断と正確な指示により、様々な困難を何とか乗り越え、ようやく地球に戻ってきたのです。このプロセスをNHK新書の「小惑星探査機はやぶさ物語」で読んだ私は、このプロジェクトに携わってこられた多くの方々の中に深く共感し、熱い勇気が湧いてきました。「はやぶさ」の快挙は日本を覆う閉塞感を打ち破りました。また、先が見通せない危機的な状況をチームワークで乗り越えた姿が、「やればできる」という思いを私たちに呼び戻したのではないかと思えます。一方、世界では「はやぶさ」の地球帰還の技術を通して、日本の科学技術力とプロジェクトチームの組織力が改めて高く評価されているとことです。今の私たちには「まだまだ我が国の科学技術力は捨てたものではない」、また「頑張れば、できるのだ」という意識こそが求められているのです。

さて、皆さん、いよいよ本校を巣立つときが来ました。本校の校長室には（天を敬い人を愛すという）「敬天愛人」の書が掲げられています。「天地自然の道、すなわち人の道を知り、全ての人に慈しみの気持ちを持ちなさい」という教えでしょう。卒業される皆さんが本校での高校生活で得た財産を大切にしてください。岐阜北高等学校という共通の学び舎で、共に学ぶ間に築かれた人と人との絆はかけがえのない宝です。生涯にわたりぜひ大切にしてほしいと思います。

これから皆さんが歩んでいかれる人生は必ずしも平坦な道ばかりとは限りませんが、我が国は必ずやここにおられる皆さんの活躍を必要としています。どうか、健康に十分留意され、本校で身につけられた学業への自信と誇りを胸に、たゆまぬ前進を続けてください。皆さんの前途に幸い多からんことを心よりお祈りし、式辞とさせていただきます。

平成二十三年三月一日

岐阜県立岐阜北高等学校長 佐々木信雄